

## 現場事務所における情報共有化について

宮崎県土木施工管理技士会  
湯川建設株式会社

赤尾 昭 弘<sup>○</sup>  
服 部 正 仁

### 1. 適用工種

2名以上の管理者が必要な工事。

### 2. 改善提案

2名以上で施工管理を行う場合、業務分担や、何がどこまで進んでいるのかの現状把握が問題となります。

特に、工事の進捗が思わしくなく、追い込まれている場合など、情報をどこまで共有しているのかで、工事そのものの進捗に影響する場合があります。

### 3. 従来工法の問題点

従来の紙ベースでの共有では、抜けや、内容が伝わっていない、とっさのときにどこに資料があるのかわからない。

等々の問題に行き着くことが多く、これらを改善し、スムーズに工事を施工していく必要があります。

### 4. 工夫・改善点

上記問題を解決するために、写真-1のようなNAS内臓のハードディスクと、複合機を使用するようにしました。

このとき、あらかじめ、御互いに、フォルダー配置、更新についてルール決めを行う必要があったた

め、ルールを取り決めて運用を行うようにしました。

基本的な運用ルールとしては、提出済みの書類、更新中の書類、未処理として、それぞれにフォルダーを決めファイルを格納した。



写真-1 共有 HDD

また、紙しかない書類については、写真-2のような複合機を使用し、スキャン後にネットワークハードディスクに格納し保管・共有を行った。

これにより、紙資料を見つけ出せなくても電子媒体には、必ずあるようにして管理を行った。



写真-2 スキャン可能な複合機

## 5. 効果

2名以上で処理を行う場合、1名が外出してもネットワーク HDD の内容を確認することにより処理を止めることなくスムーズに事務処理を行うことができた。

紙資料を見つけ出せないときも、ネットワーク HDD の内容を検索すれば、よく不明資料などもなくスムーズに処理ができた。

## 6. 適用条件

今回の工事では、2名以上の管理者による工事をスムーズに行うためネットワーク HDD 等を導入したが、1名の場合でも、活用の仕方を工夫することにより、十分に効果を発揮することがわかった。

## 7. 採用時の留意点

ここで、問題になるのが、HDD が壊れた場合全ての資料がなくなってしまうことであるが、1週間に1度、別 HDD にネットワーク HDD の内容を完全にコピーし紛失しないようにした。